

令和8年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉の意味や働き、表現のよさに着目しながら、叙述を根拠として理解したことや考えたことを適切に表現する資質・能力を育成する。	- 漢字や語彙、表記に関する基礎的・基本的な知識の定着に個人差が見られる。 - 全国及び東京都平均を全体的に上回る結果となった。一方で、「知識及び技能」のうち情報の扱い方に関する事項は本校60.1%（東京都56.7%）、「書くこと」は本校53.6%（東京都50.4%）で東京都平均を上回っているものの、情報を整理・関連付けながら自分の考えを適切に表現する力については、課題が見られる。	- 朝学習などを活用し、漢字や語彙、言語事項について繰り返し学習するとともに、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習の中で活用する機会を設け、確実な定着を図る。 「読むこと」の学習では、叙述や表現の工夫に着目させるとともに、構図や思考ツール等を活用しながら、文章の構成や内容を捉え、根拠を基に考えを形成できるようにする。 「書くこと」の学習では、考えを整理する過程を大切にし、読み取ったことや話し合ったことを基に、自分の考えを根拠とともに表現できるようにする。 「話すこと・聞くこと」の学習では、自分と相手の考えの共通点や相違点に着目しながら話し合う活動を取り入れ、対話を通して考えを広げたり深めたりできるようにする。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	経験・知識・資料を基に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり、解決したりする資質・能力を育成するとともに表現力を高める。	- 知識を問われる問題には答えられるが、知識をもとに歴史的背景を想像したり、政治的思考を働かせ、自分の考えを表現したりすることは難しい児童が多い。 - 資料を多角的に読み取る知的で楽しい授業を展開し、思考力と表現力を高める必要がある。	- 中学年では、体験や資料から分かったことと考えたことをノートやタブレット端末にまとめる活動を行う。 - 高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる時間を設け、多角的に考えさせ根拠をもとに記述・交流させることで表現力を高める。
算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	全国及び東京都平均を全体的に上回る結果となった。特に「データの活用」は本校60.3%（東京都53.9%）、「思考・判断・表現」は本校58.9%（東京都51.1%）と良好な結果であった。一方で、資料やデータを根拠として考察し、その考えを数学的な表現を用いて筋道立てて説明したり、日常生活の場面に活用したりする力については、さらなる伸長を図る必要がある。	- テープ図や線分図、数直線、などの数学的な表現方法を用いて自分の考えを説明する場面を多く取り入れ、立式や解法について相手に分かりやすく表現する力を養う。 - 算数的活動を積極的に取り入れ、量的感覚や数の概念、データを整理する力を育てていく。 - 三年生以上は習熟度別の学習を行うことで、既習内容の定着を図る。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・自然に親しみ、理科の見方や考え方を働かせながら活動することを通して、理科の基本的な知識や技能を身に付けさせる。 ・体験的な活動を多く取り入れることにより、楽しみながら観察や実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けることができるようにする。 ・自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	・観点を絞った観察の仕方や、問題を見出して表現することに課題がある。 ・知識のみが先行し、既習事項や生活経験を基に予想を立てたり、授業内における実験の結果を踏まえて考察をしたりすることに課題がある。 ・学習を通して、自分の言葉で事象を正確に記述したり、理科の用語を正確に理解した上で表現したりすることに課題がある。	・自然科学の様々な事象を正確に言語化し伝えることに課題が見られるため、特に国語科との教科横断的な学習を取り入れ、理科的な事象を正しく捉え、自分の言葉で表現できるようにする。 ・教科書で扱う内容を既に「知っている」児童も多数いるが、知識先行ではなく、3～6年生生の学年であっても問題解決の流れを丁寧に扱いながら、身の回りの自然と児童が触れ合う計画を立て、指導・支援を行う。 ・与えられた活動だけではなく、「もっとこうしたい。」との思いや願いのもと、自ら調べたり工夫して活動したりすることができるよう学習を随時取り入れていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	・体験活動や栽培活動に意欲的に取り組み、思いや願いをもって学習を進めることができた。一方で、観察における気付きの質を高めることに課題がある。 ・自分の気付きや考えを伝えることはできるが、友達と共有したり、友達のよさを取り入れて学びを深めたりすることや、分かりやすく表現することに課題がある。	・具体的な体験や交流活動を通して児童の思いや願いを膨らませるとともに、観察や振り返りの視点を示し、気付きの質を高められるようにする。 ・伝え合う場を多く設定し、思いや願いの実現に向けて調べたり工夫したりする活動を取り入れることで、表現力や協働的に学ぶ力を育てる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽に豊かに関わる資質・能力を育成する。	・思いや意図を表現するため技能の定着度に課題があり、個人差が大きい。 ・聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけながら聴いたり、表現を工夫したりすることに課題がある。	・学年の段階や学習内容を踏まえた常時活動を取り入れる。 ・題材に応じて扱う要素を精選し、ねらいに沿って児童が思いや意図をもてるようにする。 ・言葉を選択する、話型を用いる、友達の考えを聞くなど段階に合わせて自分の考えをもてるようにする。 ・学芸的行事と関連させ、クラスだけでなく学年で音楽をつくりあげる場を設定する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	互いの表現のよさを認め合い、学び合う場を生かし、資質・能力の育成を目指す。	感じたこと、想像したこと、表したいことなど、材料の特徴や構成を生かしながら自分のイメージを形にしていく力が弱い。	- 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わえるような題材計画を行う。 - 児童の実態を把握し、個々の児童のもつ資質・能力を高める題材を開発し、児童への共感を大切にしたい指導の工夫を続けていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	生活の中から課題を見だし、衣食住に関する知識や技能を活用して解決方法を考え、よりよい生活の実現に向けて実践しようとする資質・能力の育成を目指す。	- 調理や製作の手順を理解して活動することはできるが、目的や条件に応じて工夫する力に課題が見られる。 - 家庭生活を見直して課題を発見し、既習事項を関連付けながら解決方法を考えたり、自分の考えを表現したりすることが十分ではない。 - 学習したことを家庭での実践につなげる意識に個人差が見られる。	- 調理や製作、消費生活等の実践的・体験的な活動を充実させ、試行錯誤しながら課題解決に取り組む場面を設定する。 - 家庭生活との関連を意識できるよう、生活経験を振り返ったり、学習内容を家庭で実践したりする機会を設ける。 - 友達との話合いや学習の振り返りを通して、自分の考えを整理・表現し、よりよい生活の実現に向けて主体的に取り組む態度を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	- 自己の課題を見付け、その解決に向けて運動に取り組む力の育成を目指す。 - 仲間と協働し、考えを伝え合いながらよりよい動きを追究する力の育成を目指す。 - 運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しもうとする態度の育成を目指す。	- 運動技能には向上が見られる一方で、自分の課題を分析し改善につなげる力が十分ではない。 - 仲間の助言を生かして動きを改善したり、運動のポイントを言語化したりすることに課題がある。	「めあて→実践→振り返り」の学習サイクルを徹底する。 - ICT 機器を活用して自分や仲間の動きを客観的に分析する活動を充実させる。 - 技能差に応じた場や課題を設定し、一人一人が達成感を得られる学習を展開する。 - 学年で評価規準や指導方法を共有し、組織的・継続的な授業改善を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	- 世界の言語や文化に興味をもち、多様性を尊重する心を育む。 - 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言葉の働きについて理解を深めさせ、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション能力を育成する。	低学年のうちは興味・関心が高く英語を話そうとする児童が多い。しかし、高学年になるにつれて、主体的に英語を話そうとする児童が少なくなる傾向がある。間違っているかもしれないという自信のなさや恥ずかしさが原因であると考える。	- 歌やチャンツ、音声と文字の学習を取り入れ、楽しみながら英語の表現に慣れ親しませる。 - NTとスモールトークを行い、やり取りの例を見せる。その後、児童とのやり取りを多く取り入れる。児童同士がペアやグループで話し合う活動を設定し、全員が英語を発話する時間を十分に確保する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・低学年では、道徳的価値を理解し、自分の経験や生活を振り返る力を育成する。中学年では、友達の多様な考えに触れて自分の考えを深め、道徳的価値を実生活につなげる力を育てる。高学年では、多様な価値観を踏まえて自分の考えを深め、道徳的価値を自分の生き方と結び付けて考え、実践しようとする力を育成する。	・1～6年生を通して、教材の内容や道徳的価値について考え、発表することはできる一方で、学習内容を自分自身の経験や生活と結び付けて考えたり、自分の考えを深めたり、実際の行動や実践につなげたりすることに課題が見られる。	・教材の内容を理解するだけで終わらず、「自分だったらどうするか」「自分の生活ではどうか」「これからどう行動するか」と、自分自身や実生活につなげる発問や振り返りを各学年の発達段階に応じて工夫する。また、友達との対話を通して多様な考えに触れ、自分の考えを比較・再考・深化させる学習を充実させる。さらに、授業での学びを日常生活での実践につなげ、児童の具体的な行動や変容を教師が継続的に見取り、価値付けることで、道徳科の学びと実生活を往還させる指導を進める。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・低学年では、学級のために当番活動を分担して行ったり、すすんで行事に参加したりすることで、学級や学校の一員であるという意識を高める。 ・中学年では、係活動や学級会を充実させ、主体的に組織をよりよくしていこうという意欲を高め、実践までの流れを体系的に理解する。 ・高学年では、中学年までに積み上げてきたことを、クラブ活動や委員会活動で発揮し、学級、学校の醸成に寄与する態度を身に付ける。	・1年生は初参加の行事が多く、見通しをもって取り組むことが難しい。 ・当番活動はすすんで行うが、係活動で自発的に計画、実践することが難しい。学級や学校への帰属意識が低い。学級会等で、積極的な発言がみられるが、提案理由に沿った発言にはなっていない。 ・学級活動などの積み上げがなく、学級、クラブ、委員会等で主体的に行動することが難しい。	・学校全体として、学級活動を行い、学級、学校への所属意識や、児童の主体性を育てていく。特に、低学年では当番活動と係活動、中・高学年では学級会に重点を置いて指導していく。 ・活動をやりっぱなしにするのではなく、提案→話し合い→計画→実施→振り返りのサイクルを確実にいき、自分たちで回していけるようにする。 ・クラブ、委員会活動でも、教員全体で指導の在り方を共有し、児童主体の活動となるよう徹底する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるための資質・能力を育成する。	・もっている知識量が多く、興味のあることに積極的に取り組むことはできるが、すすんで課題を見付けて解決したり、知識を学習活動や生活に生かしたりする力に課題がある。	・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・探究の学習過程(課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現)が繰り返されるような単元づくりを行う。 ・教科との関連的な指導を行う。 ・年間指導計画を基に、今年度の児童の実態に合わせた活動内容に改善していく。 ・単元で活用した資料や情報、指導案などは、まとめて次年度に引き継ぐ。